

塗料の劣化の特徴を引き出すための評価手法を考案しました！

エクステリア用木材塗料の耐候性評価方法の開発の取り組み

課題名(研究期間) 水分負荷を高めた暴露条件下での塗装木材の耐候性評価（2022～2024年度）



建築物の木質化・木造化では、さまざまな形で木材利用が進められており、美観を維持するためのエクステリア塗装が利用されています。美観の長期維持だけでなく、維持補修に役立てるために、塗膜の劣化傾向を把握することが求められています。

【塗膜の劣化は施工時の影響も受ける】

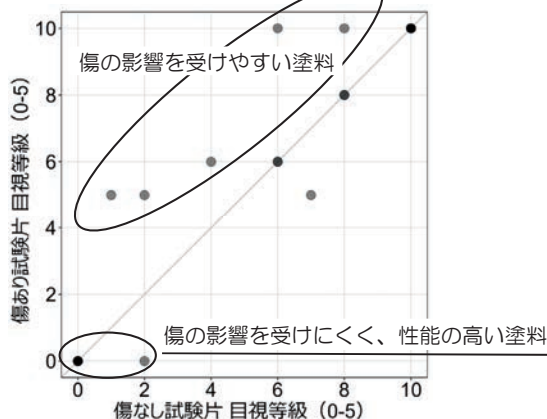


【一般的な暴露試験】
健全な試験体のみを使用している比較

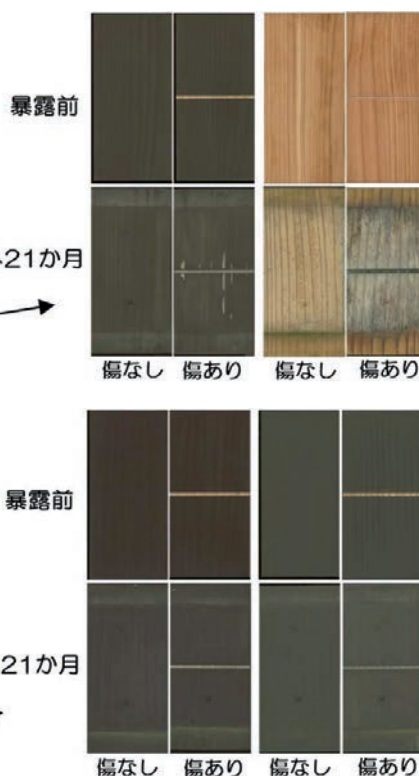


【本研究の試み】
傷を加えた試験体を併用して暴露試験を実施

切り込み傷



【屋外暴露21か月後の目視劣化評価】



成果の概要	■切り込み傷を加えた試験体を併用することで、従来の暴露試験方法では判別できなかった、塗膜にダメージがあるときの性能も同時に把握できることが分かりました。 ■切り込み傷の受けやすい塗料と受けにくい塗料の判別が、比較的短期間のうちに把握できることを確認しました。
成果の活用	■各種木製外構部材の用途に適した塗料を提案するための試験方法として活用していきます。
成果の公表	■伊佐治信一、エクステリア用木材塗料の耐候性評価、林産試だより、2025年6月号 ■令和7年(2025年)北海道森づくり研究成果発表会
研究担当	林産試験場 性能部保存グループ
連携機関	MEC Industry(株)
特記事項	
備考	